

ムサカツNews

9/21（日）の第2回の活動では、テーマごとに2グループに分かれてフィールドワークを行いました。

“まち”に出会う

中高生の視点で、見てみる・聞いてみる・考えてみる！

「こんなまちになったらいいな」という年間テーマについて考える上で、今年度は武蔵野市から提示された「中高生世代の相談」と「テンミリオンハウスでの多世代交流」という二つの小テーマに分かれて活動することになりました。第2回では、それぞれのテーマに関わる市内の施設を訪ねて、職員さんや関わっている方からお話を聞くことで、テーマについての理解を深めました。

テーマ1：中高生世代の相談

今回のフィールドワークではまず、子どもの権利擁護センター「まもルーム」を見学しました。職員の三浦さんから「子どもの権利、について改めて説明をいただき、子どもの権利擁護センターがどんなところなのか説明してもらいました。実際に「まもルーム」を見てみると、子どもが相談しやすくなる工夫がいくつもされていました。



その後は、二手に分かれて「武蔵野市若者サポート事業 みらいる」と「武蔵野プレイス 青少年フロア」を見学しました。どちらも日々の関わりを大切にしながら子ども・若者の声やつぶやきを拾うことを大切にしていました。戻ってきてからの振り返りでは「相談の質」が話題になりました。一言で「相談」といってもいじめや虐待といった「解決を求める相談」から、日々の愚痴のような「聞いて欲しい相談」まで様々な質の相談があり、質によって相談する場や相談する相手(人)を変えたいとの意見が出ていました。

テーマ2：テンミリオンハウスでの多世代交流

テンミリオンハウスは高齢の方々が日中に集い過ごせる場として、市民の支えあいで運営されている居場所です。今回は吉祥寺南町にあるテンミリオンハウス「そ～らの家」を訪問。日曜日なので、利用されている方々はいらっしゃいませんでしたが、運営団体の垣原さん、福井さんからお話を聞きイメージを膨らませました！



参加者の印象に残った一つが「行けば誰かに会えると思って来ている方が多い」というお話。日々プログラムが行われていることや“本気で”コーラスに打ち込んでいるエピソードなども聞き、「“学校”みたいですね」と言葉にしたメンバーもいました。その後の振り返りでは、「“高齢者”っていうよりも“友だち”にみたいに仲良くなれないかなあ」「若者言葉を紹介するとかもアリかも」など、今後の提案づくりに向けてそれぞれの感じていることをシェアしあいました。